

# 2007年度 環境活動報告書



2008年6月25日

株式会社群桐産業

## 目次

会社概要	・・・・・・・・・・	1
環境方針	・・・・・・・・・・	2
組織図	・・・・・・・・・・	3
環境目的とその実績	・・・・・・・・・・	4
CO <sub>2</sub> 排出量、大気環境測定結果	・・・・・・・・・・	6
“脱”埋立処理	・・・・・・・・・・	7
雨水排水等の再利用	・・・・・・・・・・	8
環境情報記録、おわりに	・・・・・・・・・・	9

## 会社概要

- 事業者名及び代表者名

株式会社群桐産業

代表取締役 山口 茂



ISO 14001 認証取得

- 所在地

〒379-2301

群馬県太田市藪塚町3201

- 事業内容

廃油の収集運搬、再生処理及び販売並びに各種産業廃棄物の収集運搬及び前処理を含む焼却処理

- 事業規模等

設立：1984年11月28日

資本金：6,000万円

売上高：14億4,000万円（2007年度）

社員数：65名

- 設備概要

面積：	総敷地	4,665.60㎡
	事務所	251.56㎡（延床面積：416.78㎡）
	油水分離施設	90.00㎡
	焼却施設	118.59㎡
	倉庫	258.69㎡（延床面積：496.84㎡）
主要設備：	収集運搬車輛	36台
	油水分離施設	1式
	焼却施設	1式
	ボイラー	1基

- 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者：専務取締役 山口 博

環境保全管理部：部長 江原 慶治

（ISO事務局）

連絡先：TEL：0277-78-2479 FAX：0277-78-5084

E-mail：info@grr.co.jp

- 報告対象期間

2007年6月1日～2008年5月31日

# 環境方針

Policy

## 基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

## 基本方針

当社は、産業廃棄物（特別管理含む）の収集運搬及び中間処理、廃油の再生処理を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。



事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域社会との協調により一層の環境リスクマネジメントに取り組みます。また、お客様や関係業者、地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染予防の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

（１）資源保護・再使用・再利用に配慮した製品を提供します。（省資源）

循環型社会をめざす事業活動として

（２）エネルギーの効率的利用をします。（省エネ）

（３）廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

（４）環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

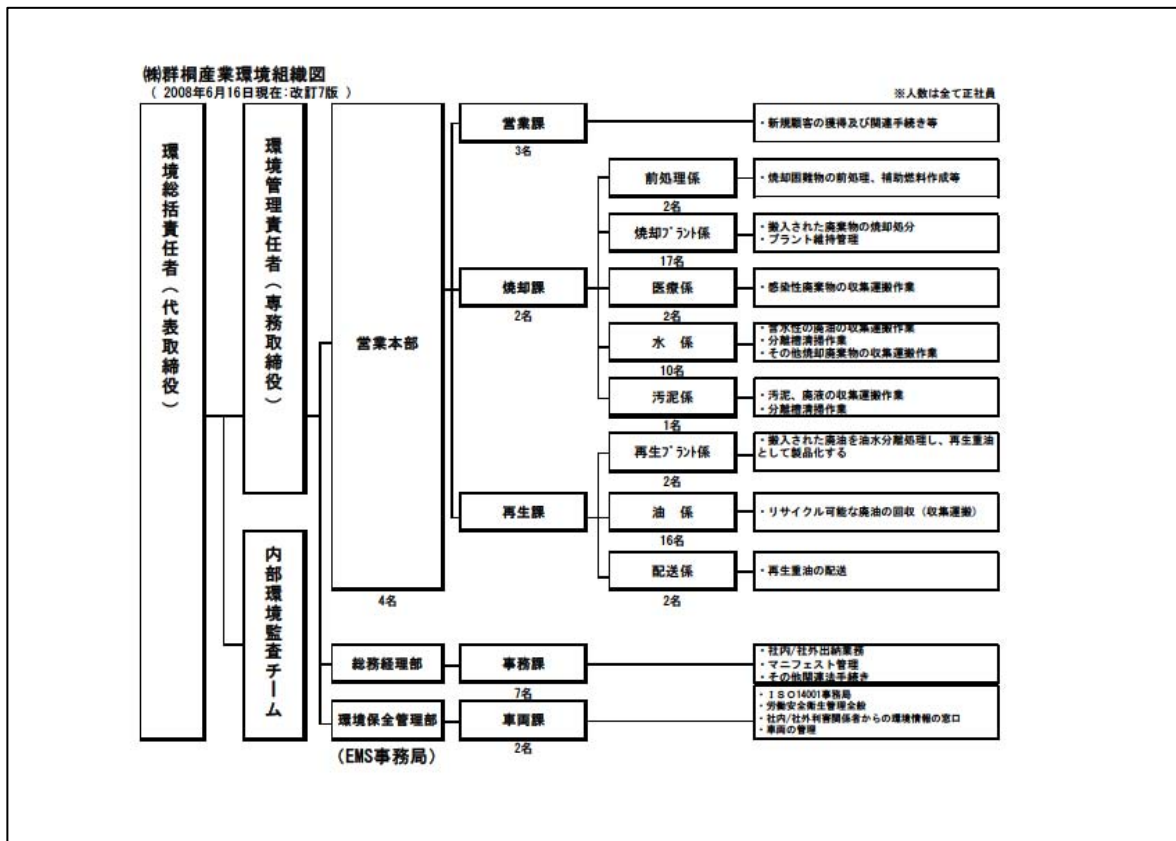
この環境方針は、一般に公表します。

2008年5月10日

株式会社群桐産業

代表取締役 山口 茂

## 組織図



群桐産業の環境組織図は上図のようになっています。

社長を環境総括責任者とし、専務を環境管理責任者としています。また、各課の責任者は、内部監査員としてEMS（環境マネジメントシステム）事務局と共にチームを編制し、年1回の内部監査を実施しています。

EMS事務局は、環境安全管理部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に係わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的に適切かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

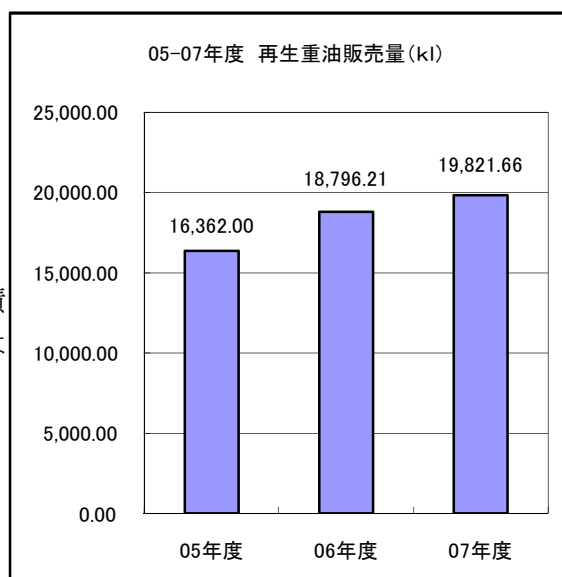
## 環境目標とその実績

### ● 再生重油販売量UP

「循環型社会に適合し、資源保護に配慮した製品の提供」として、廃油の燃料化を推進しています。これにより新たな化石燃料の使用を削減できるとして資源の節約に貢献しています。

07年度目標の18,958.93kℓに対して実績は19,821.66kℓとなり、年度目標達成率は104.55%でした。

目標達成に向けての取り組みとして、前年度と同様に原料（廃油）の確保のための営業活動の強化ならびに回収効率の向上、また保有する焼却施設での再生重油の使用量を削減するための廃棄物による燃料代替等を積極的に行った結果、一応の成果がありました。しかし、今後については原油高騰による様々な影響が予想されることから、これまでの取り組みをより一層強化するとともに、状況の変化に対しても柔軟に対応できるような社内体制の構築に努めます。そして、再生重油の安定供給等お客様のご要望にお答えできるよう全力で取り組みます。



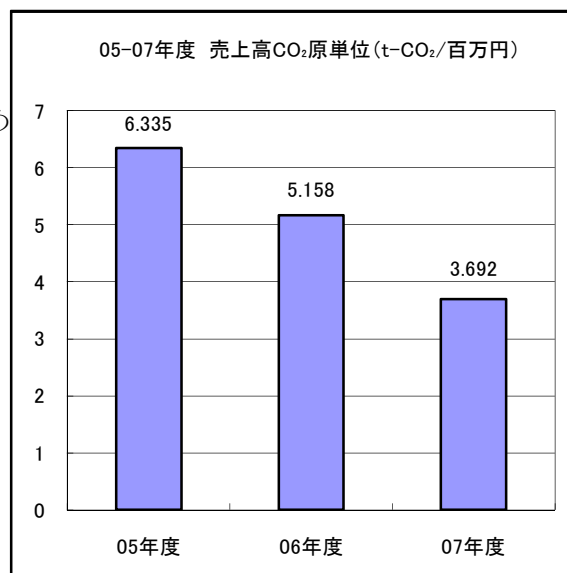
### ● CO<sub>2</sub>排出量削減

「地球温暖化（気候変動）防止活動」として売上高CO<sub>2</sub>原単位排出量の削減に努めています。

07年度目標の5.076 t-CO<sub>2</sub>/百万円に対して実績は3.692 t-CO<sub>2</sub>/百万円となり、年度目標達成率は137.49%でした。

07年度目標の大幅な達成の要因は、売上高の上昇によるものです。これは原油高騰の影響によって再生重油の販売価格が上昇したことによります。使用されたエネルギー量も減少し、CO<sub>2</sub>の総排出量も減少していますが、売上高原単位での成果としては右のグラフのように大きなものとなっています。07年度としては、市況の影響を受けているとはいえ一定の成果が得られたものとして捉え、総合的な評価の段階で考慮することとします。

また、今後の取り組みとしては前年度と同様に省エネ活動や省エネ機器の導入を検討または実施すること。また、社員教育の一環として団体申込による「エコ検定」の受験を行ない、持続可能な社会についての知識の習得や意識の向上に努めます。



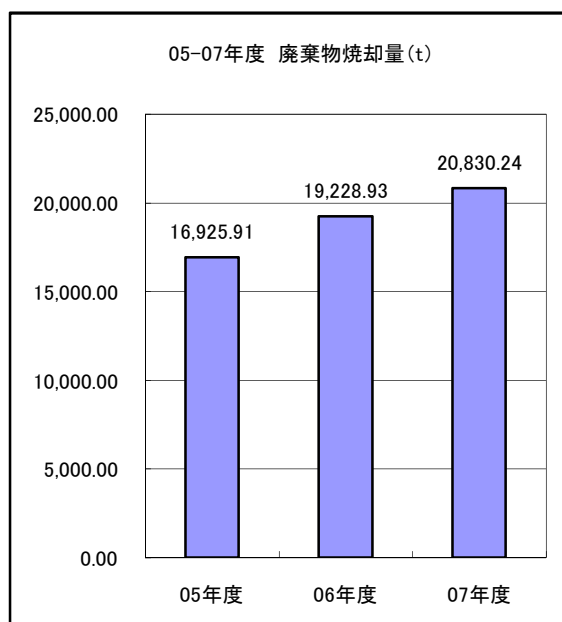
## 環境目標とその実績

### ● 廃棄物焼却量UP

循環型社会を目指す事業活動として、当社では廃棄物の焼却処理後の残渣物（燃え殻等）を埋立処分せずに、熔融固化処理業者へ委託し、建設資材等にリサイクルしてもらっています。そこで、当社にて焼却処理される廃棄物量を増やすことで、廃棄物の埋立量を減らすのと同時に廃棄物の再資源化に貢献できることから、特に処理困難物（感染性廃棄物や廃油類等）の焼却処理量の増加に努めています。

07年度目標の19,528.93 t/年に対して実績は20,830.24 t/年となり、年度目標達成率は106.66%でした。

07年度目標の大幅な達成の要因は、前年度にも増して施設の効率的な稼働が実現できたことによります。当社のスタッフによる施設の維持管理レベルは年々向上し、施設の能力を十分に発揮させています。また、環境影響については極めて軽微に抑えていることと、「焼却残渣の100%リサイクル」等の当社の姿勢が評価され、廃棄物の受入量は順調に増加しました。



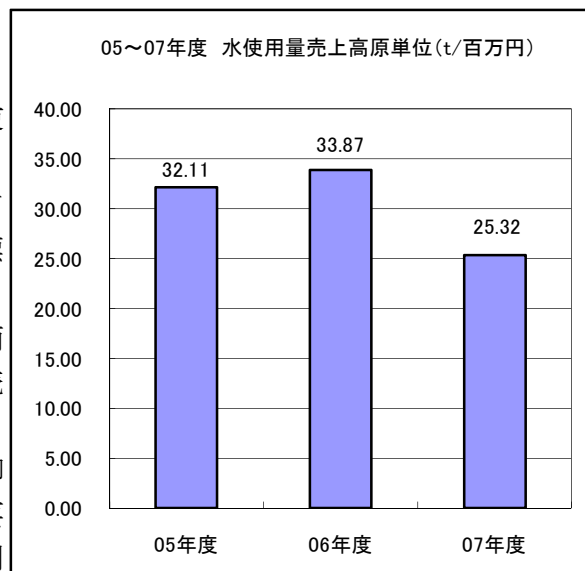
### ● 水の使用量削減

「エネルギーの効率的利用」として、売上高原単位で水（上水のみ対象）の使用量の削減に努めています。

07年度目標の31.98 t/百万円に対して実績は25.32 t/百万円となり、年度目標達成率は126.30%でした。

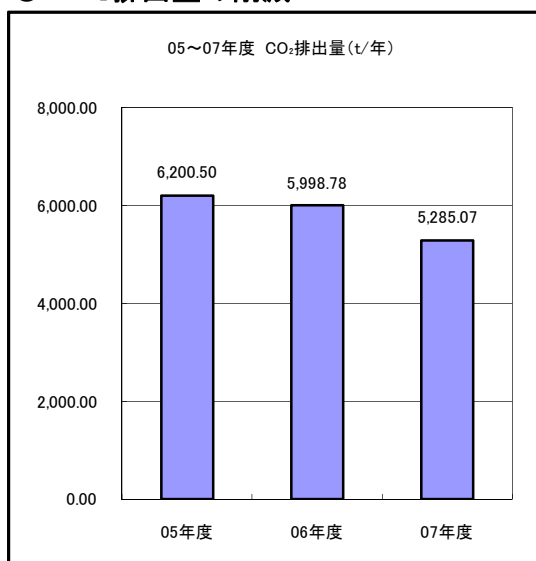
07年度目標の大幅な達成の要因は、雨水排水等の再利用が実現したことと、売上高の上昇によります。

当社の水使用量の大部分を占める焼却施設の排ガス冷却水は、環境保全上必要不可欠であることから、その絶対量は削減できません。その為、雨水排水等を有効利用することで上水を作り出すエネルギーの間接的な節約に貢献しています。この取り組みも売上高に影響されるものですが、上水の使用量も着実に減少しています。08年度の上水使用量は、さらに減少する見込みです。

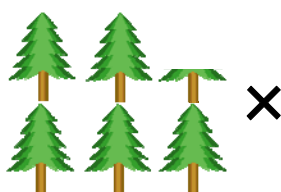


## CO<sub>2</sub>排出量、大気環境測定結果

### ● CO<sub>2</sub>排出量の削減



06年度排出量 5,998.78 t  
 07年度排出量 5,285.07 t  
**【前年度比削減量】**  
**713.71 t**



スギの木にして  
 約50,979本分の  
 CO<sub>2</sub>吸収量に相当

※スギの木のCO<sub>2</sub>年間吸収量=約14kg

環境省/林野庁「地球温暖化防止のための  
 緑の吸収源対策」より

### ● 大気環境測定結果

#### 1. ダイオキシン類

対象施設：焼却施設

資料採取日：2007.06.26 証明書発行日：2007.07.24

項目	測定値	基準値
排ガス	0.52 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	5 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
焼却灰（燃え殻）	0.000018 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g
飛灰（ばいじん）	0.14 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g

#### 2. ばい煙

対象施設：焼却施設

項目	測定結果		基準値
	資料採取日：2007.06.26 計量証明発行日：2007.07.07	資料採取日：2007.12.20 計量証明発行日：2008.01.07	
ばいじん濃度	0.027 g/m <sup>3</sup>	0.005 g/m <sup>3</sup>	0.15 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量（K値）	0.07以下 m <sup>3</sup> /h	0.48 m <sup>3</sup> /h	17.5 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	50 ppm	70 ppm	250 ppm
塩化水素換算濃度	93 mg/m <sup>3</sup>	94 mg/m <sup>3</sup>	700 mg/m <sup>3</sup>

対象施設：ボイラー

項目	測定結果		基準値
	資料採取日：2007.06.26 計量証明発行日：2007.07.07	資料採取日：2007.12.20 計量証明発行日：2008.01.07	
ばいじん濃度	0.098 g/m <sup>3</sup>	0.098 g/m <sup>3</sup>	0.3 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量（K値）	0.088 m <sup>3</sup> /h	0.073 m <sup>3</sup> /h	17.5 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	110 ppm	120 ppm	180 ppm

## “脱”埋立処理

### ● リサイクル

当社で焼却処理された廃棄物の残渣物である「燃え殻」と、排ガス処理に伴って回収された「ばいじん」は、埋立処分場ではなく熔融固化処理業者へ処理委託しています。熔融固化処理とは、廃棄物を高温で溶かして有害物質を無害化または揮発させ、ガラス質で安定した性状の「熔融スラグ」と、金・銀・銅などを含んだ「熔融メタル」を回収することです。揮発した鉛・亜鉛・カドミウムなどは「熔融飛灰」として捕集され、リサイクルされます。

### 熔融スラグの用途



熔融スラグ (徐冷)



マットに貼り付け



川岸に敷き詰め



護岸工事施工

※ 徐冷スラグは、ゆっくり冷やして固めたスラグのことで、強度が高く護岸工事などに利用されます。



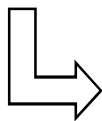
熔融スラグ (水砕)



インターロッキングブロック



大型ブロック



透水性景観舗装材



透水性景観舗装材



施工例

※ 水砕スラグは、急激に冷やして固めたスラグのことで、粒度が小さいので砂の代替品として、コンクリート2次製品などに利用されます。

このほか、道路の路盤材や土質改良材などにも利用されています。今後の循環型社会の形成において、従来の埋立処分を減らし、できる限り再資源化に努めることが必要であり、同時に普段の生活や事業活動における資源の消費を抑えていくことで、地球温暖化の防止や持続可能な社会の構築に貢献できるものと考えます。

## 雨水排水等の再利用

### ● 雨水排水等の再利用設備（砂ろ過装置）

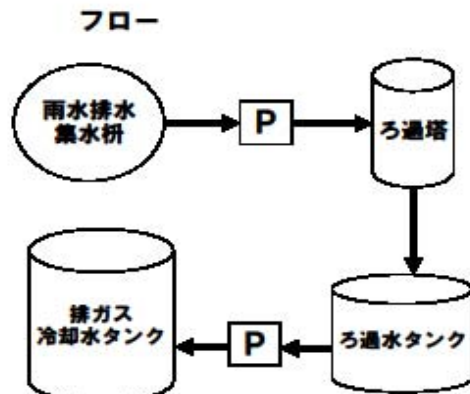
2008年8月に「砂ろ過装置」を導入しました。（資料：群桐産業HPより）

2007.08.25作成

#### 雨水利用ろ過装置概要



①制御盤



- ろ過能力  
1.25m<sup>3</sup>/h 通水
- ろ過水タンク容量  
2.0m<sup>3</sup>



②ろ過塔



③ろ過水槽

## 環境情報記録

### ● 環境情報記録

当社では環境情報を入手したときには3つのランクに分けて記録・対応しています。

A・・・ 緊急事態情報、法規制から逸脱する内容、苦情

B・・・ 自主基準から逸脱する内容

C・・・ 一般環境情報（A、B以外で且つ非苦情を除く）

2007年度はAランクが1件、Cランクが3件で合計4件の情報がありました。

1つは臭気に係る苦情でしたが、これは規制値を守っていれば良いということではなく、人が不快感を覚えることを防がなければなりません。よって、今後もより一層周辺環境に配慮します。

そのほか常日頃から環境に関する情報は入手・伝達されていますが、当社の主たる業務は環境関連である廃棄物処理であることから、ここでは特に重要な事項についての記録・対応をしています。

## おわりに

気候変動などの地球環境の変化の原因は、我々人類にあります。

私たちは、便利で豊かな暮らしを追い求めてきたことによる大量生産、大量消費、大量廃棄という現代社会の生活サイクルの罠にはまり、そこから抜け出せずにいるように思われます。また発展途上国においても、かつての先進国が歩んできたように、生活レベルの向上を目指して様々な開発を行い、資源の消費を拡大しています。さらには、人口爆発による資源消費や環境へのさらなる負荷が懸念されている状況でもあります。

私たちにとって未来への希望はとても重要なことです。未来の人類のために今からできること、多くの人々がひとつでも何かに取り組むことができれば、その小さな力が集まったときには強大な力となり、大きな成果が期待できます。

環境問題の中で必ず登場する廃棄物問題に関しては、循環型社会形成推進基本法に謳われている、発生の抑制・再使用・資源リサイクル・熱の利用・適正処理の優先順位により、それぞれの取り組みをより強力で推進し、企業も人も本質を見極めた活動をすることが重要です。例えば、リサイクルを行う為に過剰なエネルギーを消費するのでは効果があるとは言えません。確かな技術で適正に処理することも必要です。そして徐々に環境に対して最良の方策が選択できる環境を整えていくことが、企業にも人にも与えられている課題であると考えます。

環境管理責任者 山口 博



## 株式会社群桐産業

〒379-2301 群馬県太田市藪塚町3201

TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084

ホームページ <http://www.grr.co.jp>

メールアドレス [info@grr.co.jp](mailto:info@grr.co.jp)

2008年 6月25日発行

